

畿央大学後援会だより

発行：畿央大学後援会
2024年3月22日
第30号



ご挨拶

畿央大学後援会 会長
中永 和美

会員の皆様におかれましては、平素より後援会活動に対し、ご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

新たな門出にふさわしい、春光天地に満ちて快い季節となりました。この春、畿央大学を巣立つ卒業生を愛しんでこられた保護者の皆様には、心よりお喜び申し上げます。「卒業」、それは、卒業生の皆様にとっての金メダルであり、辿り着きたかったゴールです。

2024年の十干十二支は、「甲辰（きのえたつ）」です。「甲」は、十二支の1番目の文字で物事の「はじまり」を象徴し、「辰」は万物が成長して動きがさかんになる象徴とされています。つまり、2024年は、「物事のはじまり」と「大きな成長」の年です。

大谷翔平選手がドジャースへの移籍を決断し新たな一歩を踏み出しました。今、「ワールドシリーズの優勝だけ」と目標を語っています。大谷選手の注目される一つに「目標達成シート」があります。高校時代に書いた81マスのシートの中心のマスには「ドジャース入団」と書かれているそうです。目標の周りには達成のためにすることが書かれています。目標を持つこと、努力をすることで、大谷選手は、「夢」や「希望」を与える人になりました。本学で学んだ努力をやめない姿勢を貫き、人に「夢」や「希望」を与える人になってください。畿央大学で培った「自分」に誇りと自信を持って、自分の選んだ道に邁進されることを願っています。

また、ご入学をされます新入生の皆様、保護者の皆様おめでとうございます。畿央大学は経験豊富な先生方が、一人一人の心に寄り添いながら「個」に応じた指導をしてくださる「学びの環境」が整っています。「やさしさをチカラに変える」これは開学以来大切にされているキャッチコピーです。本気で取り組んでも壁を破れない時があります。次に叩く一回で壁は破れるかもしれません。それは、自分を信じられるかどうかです。自分を信じる「チカラ」を畿央大学が育んでくれます。そして、優しい社会の実現をめざしましょう。

後援会では、今後も学生生活の充実のための必要な援助を行い、畿央大学の発展に貢献していきたいと思っております。これからも、後援会活動に皆様の温かい支援とご協力をお願いいたします。

結びになりますが、冬木正彦学長先生をはじめ、先生方、保護者の皆様のご多幸を心よりご祈念申し上げます。



ご挨拶

学校法人冬木学園 理事長
畿央大学 学長
冬木 正彦



後援会の皆様には本学における教育研究活動に対し、ご理解と継続的なご支援をいただき誠に有難く、心よりお礼を申し上げます。この春に卒業される皆さんが在学中の学びをそれぞれの分野で活かして、急激に変化する未来社会において能力を発揮し活躍されることを祈念するとともに、卒業生の成長を見守ってこられた保護者の皆様には心よりお礼とお祝いを申し上げます。

畿央大学では、新しい社会でのニーズに応えられる教育への対応を先進的に進めております。コロナ禍を経て、社会生活でのコミュニケーションや教育の実施方法も急激に変わりました。大学で「学び」が、専門知識と技能の学修と豊かな教養を会得することであるのは変わりませんが、大学での授業の方法や利用するアプリなどのツールやコンテンツは、大きく変化しました。

特に昨年の初めから世界規模で急激に進んだ生成型AI技術は、大学教育にも大きな影響を与えています。本学では、いち早く利活用の指針を示し、教育の中での活用を進めています。

具体的には、AIにより大量データから生成される情報を判断し、活用できる基礎的能力を培う教育を進めています。全学共通の情報処理科目で基礎的理解を演習を通して深め、専門科目の中に具体的な応用を組み込み、並行して「次世代型教養プログラム」で興味を持てるテーマを設けています。

本学では、新しく入学された皆さんが、先進的な教育環境に溶け込めるような取り組みが用意されていますので、意欲的に学習を進められることを期待しています。在学生の皆さんは、学修環境の変化に積極的に取り組み、学びをさらに深められることと確信しています。

保護者の皆様には、ご子息・ご息女が大きく成長されることを見守っていただき、学生と教職員が一体となって進めている畿央大学の教育へのご理解とご支援を賜りますよう引き続き宜しくお願い申し上げます。

CONTENTS

ご挨拶	P 1・2
学科のページ	
健康科学部 理学療法学科	P 3
看護医療学科	P 4
健康栄養学科	P 5
人間環境デザイン学科	P 6
教育学部 現代教育学科	P 7
授業日カレンダー	P 8



人間力の重要性

健康科学部長
健康科学研究科長
臨床細胞学別科長

植田 政嗣

後援会の皆様には、常日頃より畿央大学の教育活動に対し、温かいご理解と多大なご支援をいただいていることに深く感謝申し上げます。

今年も卒業式の時期になりました。日増しに暖かくなり、春の訪れが間近に感じられます。卒業生の皆様は、楽しい思い出とともに、約3年間続いたコロナ禍の中で苦勞したこと、困難にぶつかったことなど、苦い思い出も数多くあったことでしょう。これからの進路は様々と思いますが、卒業という人生の節目を迎えて、希望に胸膨らませておられることと思います。巣立っていく卒業生の皆様に激励するとともに、ご子息、ご息女を育ててこられた保護者の皆様には、心よりお祝いを申し上げます。

さて、最近の数年間で通信技術や情報処理の電子化が加速度的に進み、あらゆる面でライフスタイルが急速に変化してきました。特に、人工知能(AI)を中心とするICTの飛躍的な進化が、人間の雇用と働き方に多大な影響を及ぼす段階に至っており、コロナ禍でこれらの流れが一挙に進みました。社会状況の急速な変化や技術革新に直面すると、大学で習得した知識や経験が、そのままでは実践できないと感じるかもしれません。しかし、どれほどAIが進歩しても、前例のないアイデアを生み出したり、想像力を働かせて夢の実現を目指すといった、知識の蓄積や論理的分析だけでは決してなし得ない、人間のみが持ち得る独創力や創造力は何物にも代えがたいものがあります。さらに、困っている人や病める人に、躊躇なく手を差し伸べる行為は、理屈では説明できない人間の情念と言えます。大学生活で培った交友関係や実習等を通じて育んだ地域の人々との交流、先生方とのマンツーマンでの学習体験は、人生のどのような場面でも、学び取った知識を社会のために役立てる人間力として発揮され得るものと信じております。

「徳をのぼす」、「知をみがく」、「美をつくる」という本学の建学の精神は、まさにこの人間力の重要性を説いたものであると考えます。人の幸せや社会に貢献するために自らの知識をフル活用して切磋琢磨すること、研究でも仕事でも自分が感動し、周りを感動させることが、まさに人間の徳をのぼし、知をみがき、美をつくることであると思います。卒業生の皆様が、畿央大学で培った人間力を十二分に発揮して、これから有意義な人生を送られることを心より祈念しております。

Unlearn — 学んだことを捨てる

教育学部長
教育学研究科長
畿央大学付属広陵こども園長

前平 泰志



大学の春は、別れと出会いの季節です。学生一人ひとりに声をかけることのできない私は、代わりに、新しく入学した学生、そして卒業していく学生にむけて、この同じ次のような言葉を贈りたいと思います。

それは、「アンラーン」(unlearn)という言葉です。「アンラーン」とは、「ラーン」(learn)という言葉に否定の接頭辞アン(un)を付けた言葉ですが、「学ばない」というのではなく、「学んだことを捨てる」「学びを編みなおす」という意味です。

新入生には「大学にせっかく入学したのだから、これまでの勉強の仕方を捨てて、自分にみあった学び方を編み出さない」と言っています。これがまさしく「アンラーン」なのです。大学は高校までと違って、学生にはかなり考える自由の余地が残されています。この自由を最大限に活かして、これまでため込んできた知を一度カッコに入れて、自分のものに自由に作り替えていくようにという提案です。そのことができれば大学における知的生活を2倍も3倍も充実して送れることでしょう。

卒業生に同じ「アンラーン」の言葉を贈るのは少し違う理由があります。本学の建学の精神の三つの言葉のひとつ、「知をみがく」がなぜ「知を積み上げる」でないかがヒントです。

「みがく」はさび付いた刀を研ぐように、さびを取るために「みがく」のです。知もまたさびついてきます。卒業してからも研ぎ続けていかなければたちまち使い物にならなくなってしまふものが「知」の正体です。学んでは捨て、捨てては学んでいく永遠の繰り返しこそが、私は本当の学ぶことだと考えており、「知をみがく」はそのことを示唆しているのだと勝手に思っています。もちろん、在学中の学生にもこの「アンラーン」の言葉を深く理解して、実践していくことを願っています。

どうぞ、本年度も後援会の皆様のあたたかいご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

■ 建学の精神

徳をのぼす

豊かな人間性、コミュニケーション力と
思いやりの心を身につける

知をみがく

科学的認識に支えられた
知性とたゆまぬ探究心を培う

美をつくる

豊かな感受性をもち
創造する力を磨く

■ 畿央大学の歩み

2003年4月	畿央大学健康科学部 開学
2006年4月	教育学部現代教育学科 開設
2007年4月	大学院健康科学研究科 修士課程 開設
2008年4月	健康科学部看護医療学科 開設
2009年4月	大学院健康科学研究科 博士後期課程 開設
2012年4月	助産学専攻科 開設
2014年4月	大学院教育学研究科 修士課程 開設
2019年4月	臨床細胞学別科 開設

メッセージ

健康科学部
理学療法学科
学科長

庄本 康治



保護者の皆さまには日頃より理学療法学科の運営・教育にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

2023年5月8日には、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置づけられ、長いトンネルを抜け、あたかも鯉のぼりが競

泳ぐ自由を学内で感じていました。マスクをする人も減少し、対面でのグループワーク、2人1組での実技練習なども平時と同レベルに実施可能になりました。学生、教職員とのコミュニケーションも増え、当たり前前の大学生活が復活しました。

2023年度からは、キャリアを熟考する新たなイベントとして、「2回生×卒業生交流会」を9月15日に開催しましたが、卒業1～3年経過した卒業生の話を生き生きと聞いていた2回生が印象的でした。また、「1回生×4回生交流会」を12月22日に開催しました。1回生と4回生が知り合う機会は少なく、すでに就職内定している4回生の話は、1回生にとっても刺激的であったようです。卒業生による「やさしさをチカラに変える次世代リーダー育成セミナー」

では、「急性期病院で勤務する理学療法士の魅力」、「回復期リハビリテーション病院で勤務する理学療法士の魅力」、「生活期リハビリテーションにおける理学療法士の役割と働き方」、「理学療法士としての目覚め」の4講演を実施しました。

2024年4月からは、コロナ禍で中止していた「KIO元気塾」を再開します。KIO元気塾は、近隣の障害をお持ちの方々に週2回の頻度で本学に来て頂き、3回生と理学療法学科教員による理学療法を実施するイベントです。

理学療法学科教員一同、全力で学生さんをサポートしていきますので、引き続きご支援とご理解のほどどうぞよろしくお願いいたします。

国家試験への取り組み

今年度の理学療法士国家試験は2月18日(日)に実施され、3月21日(木)14時にWeb上で合格発表があります。図1に本学の国家試験合格率推移を示していますが、この10年間では672名受験、670名合格(合格率99.7%)となっています。現4回生が受験する国家試験は、今までよりも試験範囲が拡

大し、昨年より合格率が低下すると予想していますが、全員合格を目標にして、「理学療法総合演習」を実施しています。

理学療法総合演習では、毎週のように模擬試験を実施し、図2のように、年末、年始、期末試験の3時期によるテスト結果から単位認定しています。理学療法総合演習の成績と本番の国家試験点数は強い相関関係があり、成績不良者については個別面談、

指導などを実施しています。また、国家試験を前年に合格した卒業生によるアドバイスなども継続して実施しています。自宅での学習よりも大学での学習を希望する学生が多いので、理学療法学科4回生の国家試験用教室も準備しています。

本原稿が皆様のお手元に届く頃には国家試験の合否が決定していますが、それまで、理学療法学科教員一同が全力でサポートする所存です。

図1 国家試験合格率の推移

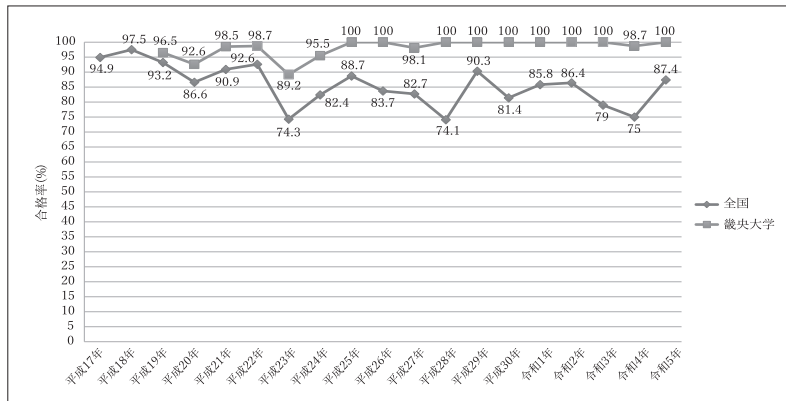
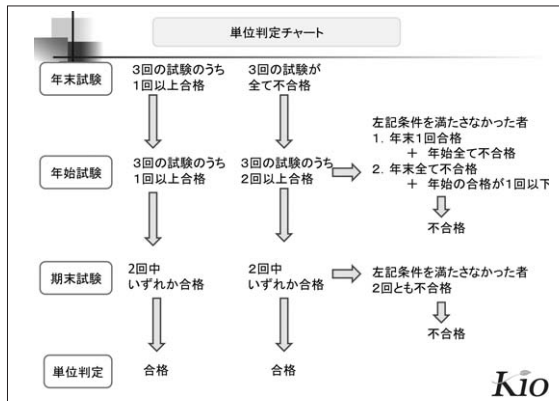


図2 理学療法総合演習の単位認定手続き



令和5年度 卒業研究発表会を開催!

11月3日(金)に開催された理学療法学科卒業研究発表会についてレポートさせていただきます。3回生前期の「理学療法研究法」で論文の探し方や読み方を学び、後期では「理学療法研究法演習」にて本格的なゼミ活動を始めました。その後、本格的に実験へ取り組み、発表に向けて準備を始めました。



今年度は17ゼミから全28演題の発表が行われました。1演題につき、7分の発表と3分の質疑応答がありました。皆さん分かりやすい説明と積極的な質疑応答を行っていました。昨年度は、コロ

ナ禍による制限がありました。今年度は、コロナが第5類に緩和したこともあり制限なく発表を行うことができました。それぞれ分野の異なる発表は、非常に興味深いものばかりでした。質疑応答では4回生や先生方だけでなく、3回生からも様々な視点からの意見・質問があり、発表内容をより深く理解することにつながりました。今回の研究で得られた経験や知識を4月から始まるそれぞれの舞台上で存分に発揮し、日々精進していきたいと思っております。最後にご協力いただいた方々並びにご指導頂きました先生方に厚く御礼申し上げます。 理学療法学科4回生 I・S・N



メッセージ

健康科学部
看護医療学科
学科長

河野 由美

後援会の皆様には、いつも本学の教育にご理解と多大なご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

1月1日に発生した能登半島地震では、



かけがえの無い多くの命が失われ、胸が痛む思いです。あらためて日本は地震大国であることを感じ、今後の看護職には災害看護に関した教育が必要不可欠であることを再認識致しました。本学では災害看護を必修化しており、引続き時代の要請に応じた人材育成に務めて行きたいと思っております。さて、前号にも記しましたが、昨年度実施された看護師・保健師・助産師の国家試験におきましては全員合格することができました。3資格3年連続で合格率100%の大学はそう多くないと思っております。今年3月卒業予定学生も合格を目指して、看護職国家試験専用自習室で、国家試験対策室長の指導のもと、日夜、学修に取り組んでおります。

なお、本学では「看護実践研究センター」を設置しております。現在の4回生の中には新型コロナウイルス感染症の影響で臨床経験に不安を感じている学生もいるかもしれませんが、卒業後に不安を感じた場合、センターの臨床看護研究部門で卒業生の継続教育に取り組んでおりますので、是非活用して欲しいと思っております。

今後とも建学の精神を礎としながらも、高い専門性と人間性を備えて、研鑽し続けられる専門職の育成を目指し、尽力していきたいと存じます。引き続き、皆様のご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

新カリキュラム「地域包括ケア実習」開始

新カリキュラムで2回生を対象にした「地域包括ケア実習」が2023年度から開始されました。学生はグループに別れ、各地域の地域包括支援センターを中心に、高齢者



を対象とした各種介護保険施設で実習を行いました。地域包括支援センターは、介護・医療・保健・福祉などの側面から高齢者を支える「総合相談窓口」です。地域包括支援センターでは医療・福祉・介護などの専門知識を持った職員らが、高齢者が住み慣れた地域で生活できるよう様々な連携をとり、健康や生活課題を解決していく日常生活支援の拠点となっています。学生は職員からセンターの機能や役割を踏まえ、地域の高齢者の現状を学びました。

また高齢者の特性を踏まえたコミュニケーションを通して、「高齢

者の会」や「介護老人福祉施設」

入所高齢者の方々から生活の実際や思いについてお話を伺う、貴重な体験をさせていただきました。はじめは戸惑いながらも、日課のレクリエーションに参加し交流を深めることで、次第に生き生きと会話を進める姿が見られました。

医療機関における看護とは異なる、生活を重視した視点からの看護の特性や看護師の役割を学ぶことができたと思います。特に2回生といった早い時期での実習で、「高齢者の望む、その人らしい」生活を多職種や地域で支援していく重要性について学びを深められた意義は大きいと思われま



産育コミュニティのプラットフォームを目指して

看護実践研究センター母子包括ケア部門では、今年度から新たに看護実習室を開放し、地域のマタニティカップルや上の子たちご家族向けの体験型マタニティクラスをはじめました。今年度は3回の開催で、20家族64人のご参加がありました。妊婦さんの中には、畿央大学の他学科OBの方、地域や実習病院からの紹介の方、学生さんのお姉さんなども…。

担当するのは、母性看護学実習の一環として参加した看護医療学科の3回生です。担当教員の助産師とともに、沐浴やおむつ交換、妊婦体験などを体験してもらいました。また、クリスマス時期にはアカペラ部のミニコンサートもありました。

このマタニティクラスには、病院で勤務する卒業生の助産師、地域で活動する保健師や助産師も一緒に参加し、マタニ



ティカップルとともに学び合う場を目指しています。看護学生、助産師学生、卒業生、大学教員が、支援する/されるといった枠を超えて支え合い、気軽に立ち寄れるプラットフォームとして、新たな産育のコミュニティを創造していきます。畿央大学を核として、緩やかにつながりながら、妊産婦さんやご家族、誕生する赤ちゃんを応援していきたいと考えています。誕生後は、畿央大学付属広陵こども園子育て支援室で実施するベビークラスもあります。卒業生の方のご参加をお待ちしています。

看護医療学科 1.0

メッセージ

健康科学部
健康栄養学科
学科長
栢野 新市



保護者の皆様には日頃より本学および健康栄養学科へのご理解とご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

今年は元日に能登半島で地震、翌2日に

は羽田空港で飛行機の衝突事故が発生しました。災害の復興や事故の原因究明も進んでおらず、何となく世の中が落ち着いていないように感じます。そのような状況ですが、後期の授業もほぼ終了し、1～3回生は一息つきながら次年度への期待と不安に包まれているのではないのでしょうか。一方、4回生は目前に迫った国家試験に向けてラストスパートの状況です。この後援会だよりが発刊される頃にはすでに合格発表が終わっています。学生達の努力が結果に結びつくことを願ってやみません。

2023年度、畿央大学は開学20周年を迎えました。それを受け、健康栄養学科では9月9日に卒業生交流会を開催しました。当

日、第1部では開学当初より在籍されていた北田元学科長、松村羊子教授のお二人に20年の歩みを振り返りながらご講演をいただきました。また第2部の懇親会では、コロナ禍でなかなか会えなかった卒業生や教職員が旧交を温めました。当日、卒業生は70名以上の参加を数え、ご家族や教職員も加えると総勢130名となる盛会となりました。

コロナ禍を経て、ようやく平常な日々が戻りつつあります。これからも在学生、卒業生を含め、学科として益々発展していきたいと思えます。引き続きご支援を賜りますよう、何卒よろしく願いいたします。

国家試験への取り組み

今年の管理栄養士国家試験は3月3日(日)に実施され、合格発表日は3月29日(金)です。国家試験は、大学4年間で学ぶ専門科目のほぼすべてが出題範囲になっており、難易度の高い試験です。試験問題数は200問と多く、例年の合格基準は総合点60%以上の得点です。



本学では、例年、新卒の全国平均を上回る優れた合格実績をあげることができています。この実績は学生自身の努力に加え、1回生からの授業の積み重ねと国家試験対策によって達成できていると考えております。

さて、今年も健康栄養学科の国家試験対策は、万全の体制で学生を支援します。3回生は後期に模試試験を受験し、これまでの学習状況を振り返り、4回生からは演習形式の授業を通年開講します。4回生では模擬試験を1年間で7回以上受験することになり、本番の国家試験に向けて自身の弱点と実力を確認し学力の向上を図ります。また、学



外での国家試験対策講座の受講も予定しています。

国家試験の出題範囲は広く、合格点を取るためには勉強量を増やすことが必要です。4回生は就職活動や学外実習などで忙しくなるため、早めに国家試験対策の自己学習に着手することが大切です。教職員一同、学生のやる気を育むよう、丁寧な指導を心がけて全力で支援します。今後とも保護者の皆様のご協力とご理解を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

「ボロネーゼ風トマトパスタ」を制作しました! ～健康栄養学科・ヘルスチーム菜良

本学学生の野菜不足の解消のためにヘルスチーム菜良は、学食を運営している(株)不二家商事様にご協力いただき、12月7日、15日に「ボロネーゼ風トマトパスタ」を各日200食限定で販売しました。ご好評いただき1月22日にも再度販売いたしました。



本学学生の1日の野菜(緑黄色野菜+その他の野菜)平均摂取量は240.7gと、1日に必要な量である350gに100g以上不足していることから、野菜をしっかり摂ることができるレシピ開発を行いました。みんなの目を引くような料理にしたいと考え、学食に今までなかったパスタで野菜をしっかり摂ることができるよ

うなレシピにしました。ボリュームもあり、価格も安い料理とするために、食材や調理法などを考え、何度も試作を行い、(株)不二家商事様にもご協力をいただきながら理想のレシピを作ることができました。実際に食べていただいた方から、「おいしく野菜もしっかり食べることができた。」「学食でパスタを食べることができるのは良かった。」「学食でパスタを食べることができたのは良かった。」「栄養や価格などを考えながら、自分たちの納得のいくレシピを作ることは大変だったが、美味しかったなどの声を聞いて、レシピ開発をして良かった。」という声を聞くことができました。



健康栄養学科 3回生 M

メッセージ

健康科学部
人間環境デザイン学科
学科長
三井田 康記



平素より本学科の教育にご理解とご支援を賜り、ありがとうございます。

つい先日まで、毎日のように夜遅くまでゼミ室にこもって、制作に打ち込んでいた学生たちも卒業研究の提出や講評会も終わると、潮が引くように

姿を見せなくなりました。4回生たちは卒業式や巣立ちの春を迎えるばかりとなりました。

下級生の期末試験も終わり、賑やかだった大学も急に静かになりました。

今年度は当初より対面授業に戻り、大学らしい授業形態を取り戻しました。3年程、自粛してきた海外の大学との合同ワークショップも復活しました。昨年の8月の終わりには25名の学生と台南の国立成功大学を訪問し、学生たちと協働して住民のたまり場づくりに汗を流しました。今年は3月の半ばに台湾の国立大学2校から教員や学生50名ほどを迎え、明日香村を舞台にして、1週間ほどのワークショップを行う予定です。

ゼミ活動もコロナ禍以前の活況を取り戻してきました。自治体や住民団体の要望を

受け、歴史的建造物の実測活動や町並みの調査、まちづくりの手伝いなどゼミ活動は多様さを増しています。

新学期をむかえると、新3回生はゼミ活動を担います。新2回生は「建築・まちづくりコース」、「インテリアデザインコース」、「アパレル・造形デザインコース」の3つのコースに分かれ、より専門的な勉強が始まります。新4回生は最終学年となり、いよいよ卒業研究や卒業制作が始まります。

授業は演習や実習を多く取り入れ、課題や模擬体験を通して、自分で調べ、考える力を身につけられるような構成になっています。来期も、学生たちはわれわれ教員の期待以上の頑張りや積極性を見せてくれると期待が膨らみます。

「立体表現Ⅱ」—子どもたちに手作り椅子をお届け—

1回生対象の科目「立体表現Ⅱ」では、丹波篠山で家具作家をされている稲葉崇史先生を講師として、2023年に開園された「畿央大学付属広陵こども園」の子どもたちのために、スツールを製作しました。

当初の2年間は背もたれのないシンプルな形のスツールを製作しましたが、本年度は、こども園からの要望を取り入れ、背もたれ付きの椅子づくりに挑戦しました。

のこぎりや鉋、鑿などの工具に初めて触れる学生48名が1人1脚、世界に1つだけの椅子を全15回の授業で製作します。

稲葉先生が作成した基本デザインをもとに、子ども達が喜

んでくれる、安全に使用できるデザインを考え、設計図を描き、様々な工具の使い方を学びながら、「脚」「貫」「座面」「笠木」などの加工を行います。学生たちも、授業の後半になると工具にも慣れ、まるで職人のような眼差しで、子どもたちへの思いを込めて作業を進めていました。

そして1月末に、完成した椅子を楽しみに待っていた子どもたちにお届けし

ました。たくさんの椅子が並び、「ありがとうございました」と声を揃えて伝えてくれた子どもたちの嬉しそうな表情をみて、学生たちも「大切に使ってね」と満足げな表情を浮かべていました。「だれかのためにモノづくりをする」ことを経験し、ものづくりに対する楽しさや難しさを改めて学ぶことができました。



▲加工を進める学生



▲完成した椅子48脚を並べた様子



▲お気に入りの椅子をみつけて集まる子どもたち

卒業研究 ～4年間の集大成～

人間環境デザイン学科では、4回生になると学びの集大成として卒業研究に取り組みます。テーマは各自で決定し、1月末の提出締切日に向けて、各ゼミの教員に指導を受けながら連日遅くまで作業を続けていました。締切日の翌日、学内にて全体講評会を行いました。全63点の制作物を食堂に並び、学生一人ひとり、研究・作品に込めた思いやコンセプトを発表しま



した。

講評会の2週間後には選抜発表会を実施し、ブラッシュアップされた作品が披露されました。さらに、保護者のみなさまをはじめ、学外の方へのお披露目を兼ねて、卒業研究展示会を実施。今年度は、本学の20周年と合わせた『大卒業展』と銘打ち、初めて大阪で開催しました。国指定重要文化財でもある大阪市中央公会堂を会場とし、当日は卒業研究に加え、下級生の演習・実習授業での優秀作品や、ゼミ活動での成果も展示しました。ご来場いただきました保護者のみなさま、ありがとうございました。卒業研究での成果は、大学HPに掲載しています。ぜひ、ご覧ください。



人間環境デザイン
学科卒業研究作品
集ページ



メッセージ

教育学部
現代教育学科
学科長
島 恒生



後援会の皆様には、現代教育学科の教育・研究活動に、いつもご理解とご支援を賜りありがとうございます。

2023年度は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが、5月8日から「5類感染症」

になり、大学生生活もコロナ禍以前の状況に戻ってきました。授業にもサークル活動にも学生の活気が戻り、笑顔で親しく話している様子が、小さな大学ならではのよさを改めて感じているところです。

本年度の教育学部の大きな出来事は、畿央大学付属広陵こども園の開園や中・高教諭（数学）一種免許状の教職課程のスタートなどです。特に、広陵こども園では、「幼児教育実践論」や「レクリエーション活動」などの授業が行われ、学生の保育現場体験の取り組みが始まっています。

さらに、畿央大学は開学20周年を迎え、様々なイベントが行われました。教育学部では、11月25日（土）に、現代教育学科記念講演&シンポジウム「デジタル社会の教

育改革」を開催し、奈良県出身で日本を代表するロボット研究者の吉藤オリィ氏による記念講演「教育形態の変化と可能性」や、経済産業省の柴田仁志氏と本学教員によるシンポジウム「デジタル社会の教育改革ー数学・理科の融合と学習の多様化の可能性を探るー」を実施しました。今後、データサイエンスにも強い教員・保育士を育てる取り組みも進めていきます。

また、セメスター留学も順調に実施されています。

一人一人の学生が人生を豊かに築いていけるよう、後援会の皆様には、引き続きご支援・ご理解をお願い申し上げます。

厳しい採用試験の中での健闘

15期生は、厳しい採用試験でしたが、健闘してくれました。

公立小学校教諭の現役合格者は57名（合格率74.0%）で、現役合格率が5年連続で7割以上となりました。過去4番目に高い現役合格率です。奈良県は8名、大阪府・大阪市・堺市・豊能地区では23名でした。今年も、奈良県教員採用試験自体の現役合格率が下がり、本学もその影響を受けることとなりました。

一方、難関の養護教諭でも現役合格者が5名（合格率50.0%）と、毎年安定した現役合格者を維持しています。特別支援学校教諭も9名合格し、3年連続全員合格となりました。中・高教諭（英語）は過去最多となる6名全員が合格し、奈良県で4名の合格者が出ました。採用試験を受験した英

語教育コース1期生受験者は、全員が合格となりました。

公立保育所・幼稚園教諭は33名全員が合格し、2年連続で全員合格、6年連続で現役合格率9割以上という快挙を達成しました。

15期生と教採・公務員対策室、学部教員が一丸となって生み出した大きな成果です。以下は、卒業を迎えた学生の声です。

「とても楽しい学生生活を過ごせました。



人数が他の大学に比べて少なく、学生同士や先生方とも深い関わりがありました。同じ授業や教員採用試験の勉強などを通してたくさんの友人ができ、仲間がいたからこそ、いろいろなことに頑張れました。」「教員を目指す友達が周りにたくさんいたので、励まし合いながら頑張ることができました。大変なことも、楽しいこともあった、充実した4年間でした。」

写真は、「教授受験者から学ぶ会」での、熱く語る4回生と真剣に聴く3回生の様子です。



畿央大学付属広陵こども園で保育現場体験!～「幼児教育実践論」

11月14日（火）、幼稚園教諭、保育士をめざす1回生65名が、畿央大学付属広陵こども園で保育現場体験を行いました。「幼児教育実践論」は、保育実習、幼稚園教育実習を履修するための必修科目であり、保育現場体験は実践的に子どもを理解し、課題をもって学修を進めることをねらいとして実施しています。

学生は、0歳児～5歳児の配当されたクラスに入り、10時～12時まで保育観察・保育参加を行いました。保育を観察し



て実習日誌を作成する、保育のねらい・内容を意識してクラス活動に参加するといった体験

を通して、学生は保育を見る目を養い、子どもと関わるための技能について実践的に学ぶことができました。



保育現場体験後に実施した報告会では、「一人一人の発達に合わせて対応することの大切さに気付くことが出来ました。」「保育者同士の情報共有や連携の大切さを学ぶことができました。」「私もこのような保育者になりたいと将来に向けて強い思いを抱くようになりました」などの感想がありました。教育学部現代教育学科では今後も畿央大学付属広陵こども園と連携した学びを進めていきます。

「幼児教育実践論」担当教員

授業日カレンダー

大学での授業は、前期・後期各15回行われます。①～⑯は授業曜日ごとの授業週数を表わしています。⑳⑳週目の最終授業期間は、定期試験、平常授業、補講が組まれます。ふだんの時間割と異なることもあります。
注:補講はふだんの授業曜日・時間に限りなく6時限目や土曜日、祝日などに実施される場合があります。
注:休業日(日曜日・授業のない祝日)の事務取扱は行っておりません。
注:※印のついた日はキャンパスに入ることはいけません。
■は授業期間外です(ただし集中講義等は行われることがあります)。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1月		1水④	1土⑦	1月⑪	1木⑬	1日	1火①	1金⑤	1日	1水 元日	※1土⑭	1土
2火	入学式	2木④	2日	2火⑫	2金⑬	2月	2水①	2土⑤	2月⑨	2木	※2日	2日
3水		3金 憲法記念日	3月⑦	3水⑫	3土⑬	3火	3木②	3日	3火⑩	3金	※3月⑯	3月
4木		4土 みどりの日	4火⑧	4木⑬	4日	4水	4金②	4月⑤	4水⑩	4土	4火⑯	4火
5金		5日 こどもの日	5水⑧	5金⑫	5月⑯	5木	5土②	5火⑥	5木⑪	5日	5水⑯	5水
6土		6月 振替休日	6木⑨	6土⑫	6火	6金	6日	6水⑥	6金⑩	6月⑬	6木⑯	6木
7日		7火④	7金⑧	7日	7水	7土	7月②	7木⑦	7土⑨	7火⑬	7金⑯	7金
8月		8水⑤	8土⑧	8月⑫	8木	8日	8火②	8金⑥	8日	8水⑬	8土⑯	8土
9火		9木⑤	9日	9火⑬	9金	9月	9水②	9土	9月⑩	9木⑬	9日	9日
10水	① 授業開始	10金④	10月⑧	10水⑬	10土	10火	10木③	10日	10火⑪	10金⑬	10月	10月 一般入試
11木	①	11土④	11火⑨	11木 補講日	11日 山の日	11水	11金③	11月⑥	11水⑪	11土⑫	11火	11火
12金	①	12日	12水⑨	12金⑬	12月 振替休日	12木	12土③	12火⑦	12木 補講日	12日	12水	12水
13土	①	13月④	13木⑩	13土⑬	13火	13金	13日	13水⑦	13金⑪	13月 成人の日	13木	13木 卒業式
14日		14火⑤	14金⑨	14日	14水	14土	14月③	14木⑧	14土⑩	14火⑭	14金	14金
15月	①	15水⑥	15土⑨	15月⑬	15木	15日	15火③	15金⑦	15日	15水⑭	15土	15土
16火	①	16木⑥	16日	16火⑭	16金	16月	16水③	16土⑥	16月⑪	16木⑭	16日	16日
17水	②	17金⑤	17月⑨	17水⑭	17土	17火	17木④	17日 公募推薦入試	17火⑫	17金 休講日 (試験会場設置)	17月	17月
18木	②	18土⑤	18火⑩	18木⑭	18日	18水	18金 畿央祭準備	18月⑦	18水⑫	18土 大学入学 共通テスト	※18火	18火
19金	②	19日	19水⑩	19金⑭	19月	19木	19土 前期卒業式	19火⑧	19木⑫	19日 大学入学 共通テスト	※19水	19水 一般入試
20土	②	20月⑤	20木⑪	20土⑭	20火	20金	20日 畿央祭	20水⑧	20金⑫	20月⑭	20木	20木 春分の日
21日		21火⑥	21金⑩	21日	21水	21土	21月	21木⑨	21土⑪	21火⑮	21金	21金
22月	②	22水 補講日	22土⑩	22月⑭	22木	22日	22火④	22金⑧	22日	22水 補講日	22土	22土
23火	②	23木⑦	23日	23火⑮	23金	23月	23水④	23土⑦	23月⑫	23木 補講日	23日 天皇誕生日	23日
24水	③	24金⑥	24月⑩	24水⑮	24土	24火	24木⑤	24日	24火 補講日	24金⑭	24月 振替休日	24月
25木	③	25土⑥	25火⑪	25木⑮	25日	25水	25金④	25月⑧	25水 補講日	25土⑬	25火 一般入試	25火
26金	③	26日	26水⑪	26金⑮	26月	26木	26土①	26火⑨	26木	26日 一般入試	26水	26水
27土	③	27月⑥	27木⑫	27土⑮	27火	27金①	27日	27水⑨	27金	27月⑮	27木	27木
28日		28火⑦	28金⑪	28日	28水	28土①	28月④	28木⑩	28土	28火	28金	28金
29月	③	29水⑦	29土⑪	29月⑮	29木	29日	29火⑤	29金⑨	29日	※29水⑮		29土
30火	③	30木⑧	30日	30火⑯	30金	30月①	30水⑤	30土⑧	30月	※30木⑮		30日
		31金⑦		31水⑯	31土		31木⑥		31火	※31金⑮		31日

冬木学園へのご支援のお願い

冬木学園では、教育・研究環境の整備及び基金の充実を目的とする募金へのご協力を広く皆様方をお願いをしております。

本学園の取り組みをご理解いただき、格別のご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

◎税額控除の適用について

本学園は、寄付税額控除制度の適用を受けることのできる学校法人として文部科学大臣より証明されています。個人の方が支出した寄付金について、確定申告時に税額控除制度の適用を選択した場合、以下により算出された額が所得税額から控除されます。

(税額控除対象寄付金(※1) - 2,000円) × 40% = 控除対象額(※2)

※1 総所得額の40%まで

※2 所得税額の25%まで

◎寄付のお申込方法 法人事務局総務部(担当: 竹本・篠本)にお問い合わせ下さい。

TEL: 0745-54-1602 E-mail: soumu@kio.ac.jp

今年は、
7月6日(土)
です!!

2024年度保護者懇談会を7月6日(土)午後15時に冬木記念ホールにて開催いたします。詳細は、5月末までにご案内いたします。ご予約いただき是非ご参加ください。